

全国銀行従業員組合連合会(銀行労働研究会)発行

復刻版

ひろば

全10巻・付録1・別冊1

不二出版

体裁—B5判・上製・総約4、800頁

収録—第1号〜第300号(1951年〜1964年)

刊行—2018年6月〜2019年5月(全4回配本)

解説—鈴木貴宇(東邦大学准教授)

推薦—志賀寛子・遠藤公嗣・熊沢誠・水溜真由美

揃定価—本体250、000円+税

敗戦後の日本社会における様々な民主化運動において、労働運動の昂揚はめざましいものがあつた。

その中でも、銀行の労働組合を横断的に結集する組織として発足した全国銀行従業員組合連合会(全銀連)は、戦前には展開され得なかつたホワイトカラー層の労働運動を代表するものである。

特に、全銀連・青婦人対策部から発刊された『ひろば』は、金融問題にとどまらない幅広い編集をめざし、労働組合文化活動の様態を凝縮した存在となつた。



とさには誌上論争も

志賀寛子（『ひろば』二元編集長）

『ひろば』は、一九五〇年一月に銀行労働組合の上部組織である全銀連（全国銀行従業員組合連合会）青婦人対策部から発刊された。B5判三〇ページたらずの小冊子であったが、身近な問題を平易な言葉で語っていて親しみやすいと好評で、有料購読制をとっていたにもかかわらず、全銀連解散時（註）の発行部数は六千部を数えた。

『ひろば』は、銀行に働く若い仲間たちの交流の場、意見交換の場であった。投稿記事が論争に発展したものもあった。

例えば、女性たちが日頃から抱いていた疑問・不満に端を発した、早出・お茶汲み、論争。また共働きのありのままを綴った、手記・共稼ぎ私たちの場合。東北のある銀行に働く女性が、現実と理想のはざまで悩む心のうちを切々と綴った手記「現実を追いつめられた嘆きの妻」には、読者から激励やアドバイスが多数寄せられた。

サラリーマンの生き方、生き甲斐をめぐる論争もあった。一回目は一九五八年の鶴見俊輔氏（当時東京工業大学助教授）の講演『「中間文化」の時代における中間層の生き方』をめぐって交わされたもの。二回目は一九六六年、加藤尚文氏（評論家）の著書『社会主義的サラリーマン』（カッパブックス）をめぐり、著者をまじえて交わされたもの。この二つの論争をふまえ、五〇〇号記念号（一九七二年）は、「情報化時代のサラリーマン―その生き方をめぐって―」と題し、座談会を行っている。

ところで、この度の『ひろば』復刻出版は、上記、手記・共稼ぎ私たちの場合、目を止めて下さった鈴木貴宇先生のご尽力により実現したもので、まことに有難く心から感謝申し上げます。

（註）全銀連は一九五六年七月に分裂・解散。『ひろば』『全銀連調査時報』『銀行員の詩集』などの出版物は、解散直後に設立された銀行労働研究会が編集・発行を受け継いだ。

『ひろば』のユニークさ

遠藤公嗣（明治大学教授）

復刻版の原稿にざっと目を通して、思わず記事に読みふけた。そして、当時、『ひろば』がなぜ広く支持され、発行部数が増え、六年間で、一九五〇年の初号百部から全銀連解散直前の六千部に増加したかが、わかった気がした。全国の各銀行の様々な職場の事情や、職場で働く女性労働者の生の声を示す記事が実に多いのである。女性労働者からみた一九五〇―六〇年代の銀行労働と労働運動とは何だったのかがよくわかる。また、全銀連は企業別労組の連合団体であり、他と同様に、加盟する各労組間の隔たりが大きかったが、その克服に『ひろば』が大きな役割を果たしたこともよくわかる。だから、全銀連解散にもかかわらず、また購読料値上げにもかかわらず、発行者を全銀連から銀行労働研究会にかえて、発行の継続が支持されたのだと私は思う。連合団体解散にもかかわらず発行が継続された組合機関誌を、私は『ひろば』以外に知らない。皆無かもしれない。『ひろば』はそれだけの価値があったのである。戦後労働運動というと男性労働者のそれのみを無意識に思い浮かべる視野の狭さが、いまなお日本の労働運動家と研究者の遅れた実情だろうが、それを打破する一助になることを、私は『ひろば』復刻版に期待する。

『ひろば』復刻に寄せて

熊沢 誠（甲南大学名誉教授）

私はかつて、一九五五年に当時の富士銀行に入社し七八年に事故死した真摯な一銀行員の職場生活の軌跡を辿ったことがある（『新編日本の労働者像』所収）。その人、河部友美は、きびしいノルマを課せられる有能な貸付係でありながら不屈の反主流派の組合活動家であり、同時に終生の反体制思想の探求者でありながらいつまでも「文学青年」であった。それらいずれのありようも放棄しないゆえの心労を背負う、それは短い苦闘の生涯だった。

その河部が愛読し続けたのが『ひろば』である。河部（筆名・上野典明）はときおりこの『ひろば』に、「中間層」とみなされる銀行労働者に必要な立ち位置（一六七号）、仕事上の専門性の陶冶と銀行の政策に対する発言力との関係（五〇〇号）、労働現場にありつつしんどくてもそこに執着してそこを変えようとする労働組合のあり方（六〇〇号）などについて論陣を張っている。河部の眼を通しての理解かもしれないが、どう論じても矛盾を免れない、単眼的な解の難しいこうした課題にも立ち入るところに、労働組合の公式政策の表明、革新側の啓蒙的な講演記録、銀行員なかまのリアルな職場情報の交換などに留まらない、『ひろば』の質の高さがうかがわれる。『ひろば』は、銀行員という独自の労働者階層、銀行の支店という特徴ある職場が培った文化を示す歴史的な資料なのだ。戦後労働運動の一隅から生まれたこのユニークな刊行物がいま復刻される意義は大きい。

サークル運動を知る貴重な資料として

水溜真由美（北海道大学准教授）

近年、一九五〇年代に各地で発行されていたサークル誌が続々と復刻されている。全銀連青婦人部の機関誌としてスタートした『ひろば』の復刻も、その流れの中に位置づけることができる。今日の感覚からすると、銀行員はどろくさい労働運動のイメージとは結びつきにくい、五〇年代から六〇年代前半にかけての『ひろば』の誌面の傾向は、炭労、国労を始めとする同時代の労働組合の機関誌や職場サークル誌と共通している。

ただし、『ひろば』においてユニークなのは、労働の場での女性問題―産休育休、賃金格差、結婚・妊娠後の退職慣行（強要）、早出掃除、お茶くみ等―を頻繁に取り上げていることだ。これらの問題をめぐってすくい上げられた女子行員の声は、同時代の女子労働者が書いた生活記録に通じている。

ところで、全銀連のサークル運動と言えば、石垣りんを世に出した『銀行員の詩集』が有名である。組合員から作品を広く募り一九五一年から年刊で発行されていた『銀行員の詩集』の存在は、『ひろば』においても圧倒的だ。

『ひろば』は、サークル運動の盛衰の過程を知るための第一級の資料でもある。『ひろば』の復刻を通じて、五〇年代におけるサークル運動の全体像がいつそう明らかになることを期待する。

女らしさとインパクト

鳥取銀行で、最近勤労体系の問題から、男と女の差が顕著な地位などが問題になってきています。また、経営部長の主任で営業部の婦人懇談会が開かれた際、部長が「女子は仕事ができ、より上品でなければならない。女らしさが欠けている」というようなことを言ったことから五月十八日に本

私たちは職場の

アクセサリーではない

女性の立場から

五月十八日の婦人懇談会では、「女らしさについてのいろいろ」座した人の一致した受取方は「女は職場のサービス係として仕えるだろうか」と婦人自身の問題が「女である以上女らしさを保ちたいのは当然であるが、仕事に忙しくなれば自然身辺のことにまわらなければならない。女らしさという言葉の解釈のしな

かしい女らしさということはその年齢の差によつて指す方向が分かれている。その正確な意味の出来ぬものを日々磨き上げてゆく社会の中にあつて古い考え方にひきずられてゆくのは、反対にすべての人々にとつて不幸なことだと思ひます。社会の実態に合致した新しい道徳が、秩序が必要で、それは私たちの手で作り出す必要はないと思ひます。もつと与えられるよりも働きかけを重視したいものです。

▲ 第122号 (1956年6月)

先頭は女は情



スロガソ

打破ろう
職場にしのびこむ被服法
結ぶ手と手で組織を守ろ
生活に根を張つた明るい
文化活動を起さう
被服法支持者を再び団会
にまかすな
戦争に反対し平和憲法を
守らう

▲ 第39・40号 (1952年8月)

早朝の玄関でピラ配り



私たちの関い

日銀 青婦人部

▲ 第25・26合併号 (1952年1月)

サラリーガールの歴史

—その発生とつりかわり—

おいたちから運命づけられた補助的性格
わが国では、はじめて女子事務員を採用したのは三井銀行大阪支店であった。「長男の子は人前に立つようなところへ出るべきではない」といった正式な考え方が支配的であつた明治二十七年のことである。当時の支店長の回顧録によると、まず小学校卒業以上の学力のある者七、八名を試験的に採用して、約一ヵ月ばかりソロバンや礼節を練習させたところが、その成績は案外によく、礼節を男子と比較したところ、女子の方が遙かに正確で敏捷であつたので、本格的に採用することにしたという。女子の髪が髷について困る」といふような苦情をいふものが出た。それが、「社員全部を擧げた。そのつぎ、アパレル・ガールの採用を断行したという。当時

つた「職業婦人に関する調査」によつても、彼女たちの初任給は、高女卒で、中卒男子の六割程度であり、今日とくらべてもかなりの低賃金であつた。

小説にあらわれた大

それは、当時の情勢の場合は、退職することが不文律であり、またそれを内規に定めたところも少なく、女子の職業は、結婚前の腰かけか、さもなくば一生懸命です。すなわち、女教員や女医、女教師なども、女教員や女医、女教師なども、例外を除けば、とてもできる相談ではなかつたようである。

として、ずいぶん進歩的な支店長であつたようである。
その後、明治三十年代から第一次大戦にかけて、百貨店、洋行、一般会社などで女子事務員を採用するところが増えていった。日本の資本主義が飛躍的に発展し、企業規模が拡大するにつれて、事務活動の分化は、補助事務員として大卒のサラリー・ガールを登場させることになつたのである。たとえば、今日の東京の前身である三浦製作所では、大正五年にはじめて女子事務員を採用したが、その時の模様を、同社の社史は次のように述べている。「これより先、先に正確で敏捷であつたので、本格的に採用することにしたという。女子の髪が髷について困る」といふような苦情をいふものが出た。それが、「社員全部を擧げた。そのつぎ、アパレル・ガールの採用を断行したという。当時



支給枚数：一着(カラー一枚)
支給年月日：昭和二十五年四月
着用年限：二カ年
品質：化繊ヤバ
色：紺
値段：七〇〇円
クリーニング代：個人負担
その他の条件：着用年限をすぎたものは自動的に個人所有となります。
X はじめて要求したときは、組合の婦人部でとりあげ、デザインも婦人部の中から募集してきめられた。いまでも更新支給のたびに少シデザインを考へてはどうか。上質生地と同時、もう

▲ 第116号 (1956年3月)

▲ 第161号 (1958年3月)

大和従組大阪支部

ともじびサークル



私たちの職場に文芸サークルが... 唯一の課題にしては... サークルの本気の根強さ

第81号 (1954年7月)



第35号 (1952年6月)

文学のなかのサラリーマン像

小田切秀雄 構成

車六という一種風変わりな名前... 小説の主人公は...

中野重治著 空想家とシナリオ 西田 勝

第136号 (1957年2月)

終戦前後の銀行員生活

ふたつの円周 興銀従組 石垣りん



終戦前後の銀行員生活... 終戦前後の銀行員生活...

第84号 (1954年9月)

銀行員の詩集ができるまで

銀行員の詩集三年紀... 七月下旬に出されたこと...



第60号 (1953年6月)

寄稿者の主な所属先

- 北海道拓殖銀行 日本開発銀行
青森銀行 日本勧業銀行
岩手殖産銀行 農林中央金庫
秋田銀行 富士銀行
七十七銀行 三井銀行
荘内銀行 三菱銀行
埼玉銀行 横浜銀行
千葉銀行 第四銀行
協和銀行 北陸銀行
商工組合中央金庫 山梨中央銀行
第一銀行 八十二銀行
東京銀行 静岡銀行
日本銀行 東海銀行

① 午 前 全5巻・別冊1

南風書房 発行／北川晃二編／一九四六年～一九四九年刊
 体裁 A5判・上製・総2,104頁
 別冊 解説・回想・総目次・索引
 別冊 狩野啓子・長野秀樹・深野治
 解題 宇野田尚哉・細見和之
 解題 36,000円十税
 推薦 大西巨人・紅野敏郎

② 文化展望 全3巻・別冊1

三帆書房 発行／大西巨人ほか編
 一九四六年～一九四八年刊
 体裁 B4判並製・B5判上製・総666頁
 別冊 解説・総目次・索引
 解題 赤塚正幸・大西巨人・狩野啓子
 解題 28,000円十税
 推薦 大西巨人・紅野敏郎

③ 鵬・ピオネ・藝術前衛 全2巻・別冊1

鵬同人社ほか 発行／岡田芳彦・出海溪也ほか編
 一九四五年～一九五〇年刊
 体裁 菊判・上製・総886頁
 別冊 解説・総目次・索引
 解題 赤塚正幸・麻生久・出海溪也
 解題 35,000円十税
 推薦 大西巨人・紅野敏郎

④ サークル村 全3巻・付録1・別冊1

九州サークル研究会 発行／一九五八年～一九六一年刊
 体裁 A5判・B5判・上製・総1,904頁
 別冊 解説・回想・総目次・索引
 解題 井上洋子・坂口博・松下博文
 解題 65,000円十税
 推薦 有馬学・池田浩士・上野千鶴子・鶴見俊輔

⑤ 人民戦線 全5巻・別冊1

人民戦線社 発行／中西伊之助編
 一九四五年～一九四九年刊
 体裁 A5判・上製・総1,700頁
 別冊 解説・総目次・索引
 解題 勝村誠・秦重雄
 解題 68,000円十税
 推薦 高柳俊男・西田勝

⑥ デンダレ・カリオン 全3巻・別冊1

大阪朝鮮詩人集団機関誌／一九五三年～一九六三年刊
 体裁 A5判・上製・総922頁
 別冊 解説・鼎談・総目次・索引
 別冊 宇野田尚哉・細見和之
 解題 36,000円十税
 推薦 金時鐘・梁石日・鶴飼哲・米谷匡史

⑦ 東京南部サークル雑誌集成 全3巻・付録1・別冊1

一九五一年～一九六〇年刊
 体裁 B5判・上製・総1,864頁
 別冊 解説・解題・回想・総目次・索引
 解題 道場親信／解題 浜賀知彦
 解題 68,000円十税
 推薦 小関智弘・坪井秀人・西川祐子・ハリール・ハルトウニア

⑧ 総合文化 全3巻・別冊1

真善美社 発行／一九四七年～一九四九年刊
 体裁 A5判・上製・総1,318頁
 別冊 解説・総目次・索引
 解題 鳥羽耕史
 解題 48,000円十税
 推薦 池田浩士・高良留美子・鶴見俊輔・成田龍一

⑨ 新女性 全16巻・別冊1

新女性社 発行／一九五〇年～一九五六年刊
 体裁 A5判・上製・総9,496頁
 別冊 解説・総目次・索引+DVD1枚
 解題 伊藤康子
 解題 370,000円十税
 推薦 犬丸義一・坪井秀人・橋本宏子・藤目ゆき

⑩ 人民文学 全15巻・付録1・別冊1

人民文学社 発行／一九五〇年～一九五五年刊
 体裁 A5判・上製・総6,750頁
 別冊 解説・解題・回想・総目次・索引+DVD1枚
 解題 道場親信・鳥羽耕史／回想 柴崎公三郎
 解題 256,000円十税
 推薦 加納美紀代・島村輝・坪井秀人・成田龍一

⑪ 学園評論 全9巻・付録1・別冊1

学園評論社 発行／一九五二年～一九五六年刊
 体裁 A5判・上製・総4,230頁
 別冊 解説・総目次・索引
 解題 中西直樹
 解題 170,000円十税
 推薦 宇野田尚哉・西山伸

⑫ 琉大文学 全5巻・付録1・別冊1

琉球大学文芸部(琉大文藝クラブ) 発行
 一九五三年～一九七八年刊
 体裁 A5判・上製・総2,556頁
 別冊 解説・総目次・索引
 解題 我部聖
 解題 96,000円十税
 推薦 小森陽一・新城郁夫・仲程昌徳・目取真俊

⑬ 東北文学 全8巻・別冊1

河北新報社 発行／一九四六年～一九五〇年刊
 体裁 A5判・上製・総4,134頁
 別冊 解説・総目次・索引
 解題 高橋秀太郎
 解題 145,000円十税
 推薦 安藤宏・石川巧・澤正宏・山田有策



ひろば

復刻版
全10巻・付録1・別冊1

発行 全国銀行従業員組合連合会（124号以降 銀行労働研究会）

体裁 B5判・上製・総約4、800頁

収録 第1号〜第300号（1951年〜1964年）

付録 『月刊ひろば』、『ひろば』（313号、500号、1096号等）

別冊 解説・総目次・索引

（分売価格 本体2,000円＋税 ISBN978-4-8350-8249-3）

解説 鈴木貴宇（東邦大学准教授）

推薦 志賀寛子・遠藤公嗣・熊沢誠・水溜真由美

揃定価 本体250,000円＋税

配本	復刻版巻数	原本号数	原本発行年月	刊行・ISBN (頭に「978-4-」が入ります)	価格
第1回配本	第1巻	第1号〜第62号	1951年2月〜1953年7月	2018年6月	本体46,000円＋税
	第2巻	第63号〜第97号	1953年8月〜1955年4月	83501823312	
	第3巻	第98号〜第122号	1955年5月〜1956年6月		
	第4巻	第123号〜第150号	1956年7月〜1957年9月	2018年9月	
	第5巻	第151号〜第176号	1957年10月〜1958年10月	83501823613	
第2回配本	別冊（解説・総目次・索引）				
	第6巻	第177号〜第203号	1958年11月〜1959年12月		本体69,000円＋税
	第7巻	第204号〜第228号	1960年1月〜1961年1月	2019年1月	
	第8巻	第229号〜第253号	1961年2月〜1962年2月	83501824117	
	第9巻	第254号〜第278号	1962年3月〜12月		
第10巻	第279号〜第300号	1963年1月〜1964年3月	2019年5月		
第3回配本	付録『月刊ひろば』第1号〜第4号、第4回全国青婦人会議特集号、				
	『ひろば』第313号、500号、1096号（終刊号）等）				
第4回配本	83501824515				
	本体66,000円＋税				

※『月刊ひろば』は『ひろば』に先行して1950年11月に創刊。その後『ひろば』に統合された。

●関連図書のご案内

長谷川国雄主宰（昭和3年〜昭和11年刊）

サラリーマン

復刻版
全24巻・別冊1

B5判・上製・総9,690頁

揃定価 本体435,000円＋税

本誌は、一九二〇年代末、昭和金融恐慌・不況を迎え、急速に増大したサラリーマン（俸給生活者）層にとつての受難の時代に創刊された「大衆経済雑誌」である。「新中間層」と呼ばれた彼らを「知識労働者」あるいはインテリゲンチヤーとして自覚させ啓発することを意図した。財閥や企業を撃ち、国際問題を論じ、「サラリーマンは戦争に行きたくない」と非戦論を謳い、「働く者本位の社会」をめざした本誌は、経済史・思想史研究に必須の資料である。

表示価格はすべて税別

不二出版

〒112-0005
東京都文京区水道2-10-10
TEL 03-5981-6704
FAX 03-5981-6705
振替 001600294084